

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

2023～2024年度クラブ目標

創立1986年

『みんなが楽しい ロータリー』



世界に希望を生み出そう

2023-24年度国際ロータリーテーマ

会長 佐藤 幸彦
幹事 村上 堅二



第1771回例会

令和5年8月24日(18:30～19:30)

○ソング

- 我等の生業

○ビジター

- 青木哲也様 CKB実行委員長(大信中学校)
- 大平 健様 CKB運営部長(鮫川中学校)
- 村上徳信様 CKB競技部長(白河第二中学校)
- 國分大地様 CKB秋季大会交流戦調整部長(石川義塾中学校)
- 佐藤秀紀様 CKB記録部長(西郷第二中学校)

○スマイルBOX

- 佐藤幸彦会長(今度の土・日はCKBです。青木先生、大平先生、村上先生、國分先生、佐藤先生、お世話になります。)
- 村上堅二幹事(青木先生、大平先生、村上先生、國分先生、佐藤先生、本日は御来訪誠にありがとうございます。今週はよろしく御願いたします。)
- 成井正之会員(本日の大谷スマイルは40、41、42、43、44号でしたが、44号を打った後右ひじ故障の残念な報道がありました。今後が大変心配です。頑張れ大谷)
- 金田昇会員(青木先生はじめ、多くの方々お世話になります。大会の成功をお祈りしております。)
- 永野文雄会員(CKBの関係者お世話になります。当日は「法事」で白河を離れますので失礼します。今日はありがとうございました。)

▶第1771回例会出席状況 (R5年8月24日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	53名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	67名
Ⓒ ①の出席者数	25名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓔ ②の出席者数	10名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	35名
Ⓕ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	63
Ⓖ = ⑥ / ⑦ × 100 (例会出席率)	55.5%



第10回CKB中学校野球大会
8月26日(土)、27日(日)

▶例会日:第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場:白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局:〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5(白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間



佐藤幸彦会長

皆さん、こんばんは。まず初めに、本日のお客様を紹介させていただきます。青木先生、大平先生、村上先生、國分先生、佐藤先生。後程、卓話をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。まず、先週は休会でしたので2週間ぶりでございます。皆さん、お盆休みはいかがでしたでしょうか。かなりリフレッシュされたことと思います。今週の話ですが、全国甲子園高校野球の話で持ち切りかと思いますが、慶応対仙台育英ということで、見事慶応が優勝。仙台育英も準優勝ということで両方共におめでとうを伝えたいなと思っております。107年ぶりとか、先頭打者ホームラン。または、5回裏終了のクーリングタイム等。また、丸刈りでなかった高校が今回は7校程あったとか聞いていたんですが。個人の自由の尊重を重んじると共に、部員減少の歯止めとなって、今後益々頑張っていくんじゃないかなと。慶応の応援も含めて、新しい風が吹いた大会だったかなと感じました。白河でもパブリックビューイングが開催されてテレビでも放映されてたわけなんですけど、白河の鈴木市長、また泉崎の選手がいるということで泉崎筋内村長も一番先頭で応援してたようにテレビでは映っておりました。その中で、祝連覇とか垂れ幕、横断幕ももう既に用意してあったようなこと聞いておりますが。幻になってしまいましたけど、本当に皆さん楽しんで応援するほうもやってる側も楽しんで大会じゃなかったかなと思っておりました。さて、ロータリーの話になりますが、8月19日、地区研修セミナーがございまして、これには中目会員と諸橋会員、阿部エレクトも参加されました、他のロータリーの方からだいぶ頑張ってたよという褒め言葉がございましたのでご報告させていただきます。8月20日、一昨日でございますが、白河ロータリークラブ。8月23日、昨日ですが白河南ロータリークラブに村上幹事共々表敬訪問させていただきました。白河ロータリーにおきましては、菊池俊一郎会長、原芳之幹事のもと、クラブテーマを「自他共栄」一親睦と友情一のもと、40名で順調にスタートされたということで伺っておりました。南ロータリークラブさんにおかれましては、鈴木清次会長、茨木龍芳幹事のもと、クラブテーマを「ロータリー活動を楽しもう」と、13名プラス名誉会員1名でスタートされた聞いておりました。久々に他クラブにメーキャップしたわけでございますけども、そのクラブのいろいろ特色があって、例えば当クラブでは今ホームミーティングの案内、後程委員会のほうからあるかと思うんですが、ホームミーティングというのは他のクラブが全部やってるもんだなと思いましたが、やってないクラブも結構あるということで、自分のクラブにただけではわからないことがメーキャップすることによってわかるということが感じました。皆さんも機会があれば、近くのロータリークラブにメーキャップされたらいかがかなと思っております。さて、明後日の話になりますが今日先生方来ていただいておりますが、8月26、27日と泉崎においてCKB野球大会が行われます。神奈川から、神奈川というと慶応の地元ですね。かなり盛り上がりつつあるんじゃないでしょ

うか。2校。県内地域から18チームになりますが、合計20チームでトーナメント方式で2日間に渡って行われます。会長の役割として、当日始球式があるらしいのですが、私野球の経験がないものですから、果たしてできるのかどうか今からドキドキしてるんですが。先程もどなたかに練習してんのなんて言われましたけど、全然ボールもなければミットもないので、何もやってない状態なんですけど、なんとか全力を尽くしてやりたいと思っております。また、上杉謙太郎議員、当クラブのメンバーであります祝電を預かっております。当日、発表していただければと思いますので、よろしくお願いたします。以上を持ちまして、会長の時間とさせていただきます。



CKB協賛金の贈呈

■幹事報告

村上堅二幹事

- 米山記念奨学会担当 森：米山月間資料送付先の確認
- 米山記念奨学会 事務局長 柚木裕子：ハイライトよねやま281号
- 会長 味戸雄二郎：須賀川ぼたんロータリークラブ年次計画書
- 米山梅吉記念 理事長 松村友吉：賛助金ご入金のお願
- ガバナー 右近八郎、RLI委員会 委員長 田中毅：ロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI) 第6期パートII開催のご案内
- 第2580地区ガバナー事務所内名誉会長 田中毅：秋の「第21回ロータリー全国囲碁大会」のご案内
- 右近ガバナー事務 芳賀美宝子：9月・10月の地区行事について
- 日本ユネスコ協会連盟：「2022年度活動レポート」の送付について
- ガバナー 右近八郎、社会・国際奉仕委員長 白岩薫：23・24年度「社会・国際奉仕委員会セミナー」開催について

■委員会報告

○野球愛好会

吉田充監督



皆さん、こんばんは。青木先生はじめCKBの実行委員会の皆さん、今日のご苦勞様でございます。今度の土曜日、日曜日ということで、準備も大変でしょうけども頑張ってくださいと思います。土曜日の夜に、私も例年のごとお酒を持ってお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。お世話になります。それでは、野球愛好会のほうからご報告をさせていただきます。今年度、東北大会の福島県予選が5チームで開催されます。福島県のほうの代表として2チームが東北大会に行けるというふうな事で、予選会が福島県はあります。それで、9月1日

が前夜祭になっておりまして、19時から21時、福島市の「ローゼンケラー」という所でございます。大会が翌日9月2日午前8時から、東邦銀行の研修センター隣の東邦グラウンドという所で、第一試合が8時半から。第二試合が10時30分から。第三試合が、13時からということで、大会日程が決まっております。時間のある方、是非福島市まで応援に駆けつけていただければありがたいと思います。よろしくお願ひします。

○親睦活動委員会 吉成真五郎委員長



皆さん、こんばんは。親睦活動委員会から、第1回ホームミーティングのご案内ということで、今週の火曜日に文書流させていただきました。ちょっとタイミングが遅れまして、大変失礼いたしました。各班長さんには大変お忙しいと思うんですけども、日程を取りまとめてホームミーティングを開催していただきたいというふうに思います。テーマ1、2とあるんですけども、特にテーマ2のほう白河西ロータリークラブ細則の読み合わせということで、各自皆さん年次計画書を持参していただきまして、10ページから委員会についての読み合わせをしていただきたいと思います。委員会の役割を確認していただいて、細則をよく把握していただく。特に新しい会員の皆様には、そこを徹底していただくようお願いいたします。どうぞよろしくお願ひします。

■本日のプログラム 青少年奉仕委員会担当例会

○青少年奉仕委員会 島田修一副委員長



このところ、ロータリー活動励んでおります島田と申します。よろしくお願ひします。今年は私、青少年奉仕委員会の副委員長をやっております、今回CKBのほうも担当させていただいております。先程、会長からお話もあったように昨日まで高校野球大変盛り上がりまして、野球皆さん関心持たれてるところだと思っております。今週末も、その甲子園に負けず劣らずの中学校の先生方の手作りによる大会。チャレンジ県南ベースボールフェスティバルが泉崎さつき球場をメインに開催されます。今日は、5人の先生に来ていただいております。5人の先生、皆さんから卓話のほうをいただきたいと思っておりますので、どうぞ先生方よろしくお願ひします。

○CKB実行委員会実行委員長 大信中学校



改めましてこんばんは。毎年、大会の前にこういった場所でお話させていただけること、大変嬉しくありがたく思います。大信中学校の青木と申します。CKB大会の実行委員長をやらさせていただきます。よろしくお願ひします。プログラムのほうにも載せさせていただいたんですが、チャレンジ県南ベースボール大会、略称してCKB大会と。覚えてもらいやすいようなネーミングにして、ずっとやっていければなというところで、それを目標に毎年頑張らさせていただきます。そもそものチャレンジ県南ベース

ボール大会10回目に当たる今年、再度本当にいろいろ考えさせられる時間になりました。第1回が行われた時というのは、福島のほうで全国大会をやるということで、福島県の強化策事業ということで各地区で野球組織のほうで何か新たな事をどんどんやろうというような目論見がありました。そんな中、他所の地区では野球教室をやるとか、あとは物品を購入するとか、いろんなそういう地区の取り組みがあったんですが、私たち県南としてはとにかく底辺拡大をして、皆が野球やりたいなという、あの大会良かったなというような大会を作って実践していくことが底辺拡大の第一歩じゃないかというふうに考えまして。県南地区で野球をやってる生徒が全員集まるというイベントが、うちの地区はCKBができる前は1回もなかったんですね。なくて県南地区の野球少年、野球やってる子達全員が集まって、これが皆なんだなというのを感じれるような盛大な開会式をやって、なかなか上位大会とか行かないと味わえないような入場行進をして、そして開会セレモニーでは花火が上がり、皆をこう盛り立てるようなきっかけになるような開会式をやることで、また野球に対する姿勢も感謝の気持ちもどんどん身につくんじゃないかなというところからスタートさせていただきました。その際に、自分がその当時、東中学校のほうで野球部をやっていたんですが、神奈川のほうで神奈川交換会というイベントがありまして、そちらのほうでそれこそ今、慶応の話がありましたが慶応の中学校の森先生という先生に出会いまして。慶応の森先生に大変お世話になっていく中で紹介していただいたのが、熱い男だぞというお話をいただいて紹介していただいたのが逗子開成の栄先生でした。逗子開成の栄先生の所と神奈川で試合をさせていただいたところ、本当にその上手い下手とかじゃなくて、全力で地を這う姿勢で元気よく、そしてチームのために何か自分ができることは最善を尽くそうというような目力というんですか。そういったものをすごく感じて、やっぱりそのサカエ先生のお話しぶりなんか聞いて、こういう選手とか監督さんに刺激を貰えたらうちの地区にも本当に有意義じゃないかというところで、サカエ先生に是非来てほしいというお話をさせていただいたことが招待のきっかけです。その時が本当に思い出されるのが東日本大震災でした。原発で放射線、放射能等、自分の子供たち、自分の野球部の生徒、あと学校の生徒。丁度、自分の子供も中学生、高校生だったもんですから、本当に周りの目というか、心配というか、これから本当にこの子供たちの将来ってどうなっていくんだろうって、本当に不安に駆り立てられながら。でも、自分たちは前を向いて元気な姿勢を見せていかなきゃというのが、その頃の自分たちの活動ぶりでした。ただ、やっぱりニュースを見れば風評被害で福島の野菜を食べたら鼻血が出たとか、そんな漫画がちょうど出始めの頃で、出場が決まった栄先生も学校長とか保護者の皆さんとかから、いろいろ絶対あったと思うんですね。そんな中、その日にそのニュースが出た日のその夜に電話をいただいて、2チーム出ていいか、あと保護者いっぱい連れてってみんなでバーベキューやらないかというふうに声をかけてくれたのが栄先生でした。本当にそこは、なんて言うんですかね、救われたというか、元気をもらったというか。本当にそんなスタートでした。その出会いがあって、秋冬は自分たちは自分たちの選抜チームとか県南地区の選抜チームなんか逗子葉山のほうでお世話になったりして。夏は来て

いただいて、大会プラス合宿ということで金曜日からグラウンドに入って練習をしたりしてくれています。そんな付き合いが本当に10年。自分は個人的には14～15年になるんですけども。そんなお付き合いをいっぱいさせてもらっています。本当にコロナの時も、お互いに足を運んだり、ユーチューブでお互いにメッセージを送り合ったりというところで、沢山福島に元気をくれている逗子開成さん。逗子開成さんと、そして湘南学園にも声をかけてくれて、更に輪を広げていただいて。その湘南学園も人数は少ないんですけど、3年生も連れていきたいというふうに言うてくれて。お家の人たちもバーベキュー、今年は学校の制約がちょっと湘南学園のほうが厳しくて、まだそういったバーベキューとかは自粛するようという通達をいただいているようなので、今回は「ホテル日活」のほうに泊まってもらって、バーベキューのほうは参加しないけども野球のほうはということでもたまたお世話になります。ということで、沢山の刺激をいただきながら大会が行われるということに、本当にありがたいお話をロータリーさんのほうで後ろ支えをしていただいて、こんな立派なプログラムや大会の運営費、そして垂れ幕とか横断幕とか旗とか、そういったものを本当に形になるものをいっぱい作っていただいて、子供たちはそういったところで野球ができるというのが、本当に格式高い雰囲気緊張感を持って試合ができるというのは、本当に良い財産になってるんじゃないかなと思います。新チームになって東北新人大会というのがあったんですが、ほぼほぼ公式戦でスタートするというのがこのCKB大会のスタートなのかなと思っています。そんなこの大会をずっとやらせてもらって、本当に自分たちは幸せですし、この場に立つと本当に週末の試合や運営、そして夜のイベント等、身が引き締まる思いでいっぱいです。なんと子供たちに沢山の思い出と希望と、あと笑顔をいっぱい提供できるような大会に必ずしたいと思います。また、神奈川の両チームにも本当に感謝の気持ちを持って、こういった意味を踏まえて選手たちには立派な開会式や試合をして、お互いコミュニケーションを取って、2年生にとっては残り一年の良いスタートを切らせられるようなお膳立てをしていきたいなと思っています。本当に毎年、このような形で沢山の後ろ支えをしていただいて自分たちは大会ができる事、本当にありがたく思っています。全力で頑張りますので、どうかよろしくお願いします。そして、今後も違う形でごみ拾いとかそういったところで、何か子供たち中学生にやれることが是非あれば恩返しを出来ればしたいなと本当に思っていますので、何か声をかけていただくとありがたいです。熱い先生方が今日いっぱい来ていただいていますので、沢山いろいろお話をしてもらって、自分たちの思いをわかっていたいただくとありがたいです。そんな感じで二日間頑張りますので、今年も節目の10回記念ということでよろしくお願いします。ありがとうございました。

鮫川中学校

大平健先生



こんばんは。鮫川中学校の大平と申します。今、あの教育実習がという話がありました。30年前。30年前で、自分もまだ思うと25歳で、私は出身いわきなんですけど、いわきのほうからの新採用で県南の西郷一中ですか、そちらのほうに入ったのが30年前かと。

こう30年前ってどんな時代だったかなと、ちらっと今アドリブですけどちょっと思うのがあって、結構野球の世界も試合的にベンチとベンチと怒鳴り合いもよくありましたね。それから、子供に対してもこうかなり強い指導がどのチームもあって、あんまり大きな声で言えないんですけども、今の時代やっちゃったら多分くびになってるんだと思いますから、そんなふうな時代だったなと思ったりしています。今、高校野球とかも話題になってますけども、やっぱり高校野球やっていた頃の体つきの違い、雰囲気の違い。そして、夢にも思わなかった長髪のチームが全国優勝。長髪OKになる時代が考えにくかった。だから、高校へ行って野球やりたくない子は、理由としては坊主になりたくないというのも少なくなかった気がいたします。彼らが実習の時、よく遊び行きました。自分も年齢近かったのもあるんですけど。週の半分くらい行ってたかね。本当教育実習って忙しいんですけど、その実習の成果がどうだったのかは知りませんが、非常に楽しい2週間過ごさせてもらった気がします。じゃあ、このCKBの大会のほうですが、正直に言うと私最初から関わってたわけじゃなくて、自分ちょっと一時養護学校のほうに、支援学校のほうにちょっと福島のほうで勤めるようになったもんですから、4年間程ちょっと空白があります。プラス、西郷二中という所に戻ってきたんですけども、サッカー部の顧問一年ありまして、これでも黒づくめのおまけに半パンで笛吹いてたんですが、そんな時代もありまして。実はそのCKBというものに、何回目から戻ったのかなというところ2回目だったと思うんですよ。そして、勝敗だけでいうならば戻った年に野球部顧問に、このCKBの大会なんと準優勝で。それ以来、ほとんど勝ち星ないんですけど。そんなふうになっちゃったもので、いろんなこう思いがあります。先程、青木のほうからも話がありました。その全中へ向けての強化策の一環として県南地区としては大会の一つ。そして、当時の先生の話だとその開会式というものを全部のチームが一か所で行う、そういった経験も欲しいよねということで、その開会式が始まったというふうにも聞いております。そう考えると、今年その開会式が久方ぶりに戻ってくるというのは、すごく大きな意義があるんじゃないかなと。次にすみません、自分自身の話ですが、この開会式って実はやらしたことがありまして、違う所で。中体連の県大会、そっちのほうの入場行進で私、先導をやったことあるんです。先導というのは行進の一番最初です。気付いてなかったんですけど、思えばあの開成山ですね。開成山で途中から手と足が一緒になってしまいました。本部のほうを見ると、ちょっと怖い偉い先生がいるんですけど、その先生が一生懸命手を振ってるんですよ。ということは、もっと手を振れということですかと思って、ますます悪化しちゃいまして、ちょっと場内爆笑になってしまいました。ちょっと苦い経験が開会式というのはございます。入場行進というのは。そんなことも考えると、ちょっとどうでもいい話かもしれませんが、開会式を歩ききるというのは長い距離を手と足一緒にならずに綺麗にやりきるというのは、子供にとって大きな意味があるんじゃないかなんて。一度やってみてください。一生懸命手をあげて歩こうとして歩くと、絶対大人だったら手と足一緒になりますから。というわけで、開会式ですけども。あとそこから神奈川さんとの繋がりであるとか、そういったものとか、試合よりも試合

じゃないところで大事な事が凄くこう詰まっている大会のように感じてます。また同時に、この大会は夏の終わりと同時に秋の始まり。ちょっとかっこいいような言葉ですけども、そんなふうな捉えも自分しているところです。なんかあれなんですよね。毎年、この大会やる時って世の中では24時間テレビやってるんですよ。なんか24時間テレビ見ていると切なくなりませんか、最後。本当にこう夏が終わるような。一昔前だと、残念ながら私共東西白河の教員は、他の地区よりも一足早く二学期を迎えます。もう既に、学校始まって一週間近く経つんですけども、こんな悔しいことはなくて。本当、うらやましいなど。先だって違う大会で、日曜日が終了だったんですが、俺明日から学校なんですって言うのと、まじって。なんでそんなに早いんですかと。皆さん、そうだよ、お前らもっと働けばいいよと思うかもしれませんが。やっとなんか、今日くらいになって諦めがついてきたというか、そんなもので。裏番組は24時間テレビ。24時間テレビイコールCKBみたいなものが、ちょっと思ったりもするところです。本当お陰様を持ちまして、優勝旗であったり、それから先程のプログラムであったり、それからいろんな備品であったり、そういったところで大変お世話になっております。また、去年ちょっとこの席では言い忘れたことあるんですけども、2年前は選抜チームのほう長崎に行くにあたりまして、多くの寄付等いただきました。大変ありがとうございました。すいません、この場を借りてお礼言わせていただきます。改めまして、ありがとうございます。また、神奈川でやっている、この去年からやってる矢吹さんとこの事に関しても多くのご支援いただきまして、本当にありがとうございます。この大会に関していえば、子供らにとってもまだまだ始まりでそういった中で、またそして合同チームが増えたり、自分のチームに関していうと合同チームとしては今回が初めての試合となります。そんなふうな意味でいろんなスタート。多くの人の力を借りてのスタートを切れること、本当嬉しく思っております。大会では試合、それから違うところなどでも頑張っただけでやっていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。すみません、変な話ばかりで。ありがとうございました。

西郷第二中学校



佐藤秀紀先生

こんばんは。本日はありがとうございます。私もこの場は初めてでして、教員って結構開かれた学校って言いながら、実はすごい狭いところで閉鎖的なところで仕事してるなど改めて思います。私も世の中の事、全然知らないななんていうふうに思ってます。世の中はいろんな人の仕事で支えられて成り立っているんだなんて改めて思いました。また、子供たちにも伝えていきたいななんていうふうに思います。私は南相馬市出身です。小高区の出身で、ちょうど震災の年に母校の小高中学校で働いていました。小高中学校は原発から12キロくらいの学校です。沿岸部の生徒もおりまして、びしょ濡れになりながら学校に先生って泣きながら夜中來たりとか、お父さん流されたら泣きながら來たりとか、その前に勤めていた尚英中学校の野球部の子が津波に流されて亡くなってしまったりとか、いろんな悲しい経験をしました。その中で、原発事故の影響で自分の実家も入れなくなってしまったので、

奈良県のほうに避難というか奈良県に採用されましてしばらく向こうにいたんですが、戻って来てみたら相対地区はもう壊滅的で、どこも野球部がほとんど人がいないような状況。その中で私は西郷二中で野球部持たせてもらって、野球好きな子が集まってくれて私の指導を受けながら野球に携わっているのは、凄く嬉しいななんて思っております。しばらく連合チームが続いているんですが、連合チームは連合チームなりの野球好きが本当に野球好きな子たちが集まって気持ちを一つにして戦ってる、それも一つ楽しいななんていうふうに思っております。今回、このCKB大会、私が赴任して5年前から一緒に参加させてもらってるんですが、本当に開会式の雰囲気凄いなというふうに思っています。みんな入場行進してパフォーマンスがあって、夜も盛り上がり、次の日また頑張るぞって気持ちでやってもらえるので。あれきっかけに新チームがまた強くなっていったりとか、仲が深まる大会じゃないかなと思います。それを運営できるのも皆さんのおかげかななんていうふうに思ってますので、今回も一生懸命働いていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。以上です。

白河第二中学校

村上徳信先生



改めまして、こんばんは。白河第二中学校、村上と申します。この度は白河西ロータリークラブの皆さんに多大なるご支援をいただき、第10回目ということで10年この大会ができたということ、私たちだけでは確実に難しかったかなと思います。先程、大平先生からも話あったように、私たち教員は本当に専門の好きな競技をずっとできるかというところではないです。特に体育教師なんかの場合だと、全然関係ない競技を顧問持つこともあったり。私の場合もまず東中学校で副顧問を野球部のほうを最初して、青木先生にその時初めて会いまして。それで野球を始めて。東北中学校にその後移りまして、東北中学校では最初3年かな。ソフトボール部のほうの顧問になりました。その後、今年から白河第二中学校のほうに赴任しまして、住まいは須賀川なんですけどずっと県南のほうに希望を出して、この県南でちょっと野球に恩返ししたいなということで通わしていただいております。生まれは岩手県の奥州市になります。大谷翔平が生まれた所と同じですね。この前、東北大会で優勝した前沢中学校の近くで生まれました。何の縁か、父親が銀行員だったもんですから。その後、いろんな所を転々としてまして、高校は宮城県の高校に行きました。中学3年生になる時に転校して。結構嫌だったんですけど、親父に家族で全員で引っ越すんだからと言って、岩手から宮城の石巻という所に行きまして、石巻中学校から石巻高校で野球をやらせてもらいました。そこから仕事で就職で郡山のほうに来まして、他の先生方とはちょっと違っていて、わたくしこの仕事したのは40になってからです。その時、青木先生に会った時はもう私40を超えてまして。今まだ教員やって10年しか経ってないんですけど、もう50になっちゃいましたが、そこまでは一般で企業で働いてました。会社が出していた塾のほうをやっている、震災があって会社のほうで撤退しまして、そのまま今度は自営になりまして郡山でやってたんですが。3年くらいやって、ふと何だろう、勉強だけじゃなくて、ちょっともっと生徒に関わりたいたいという

思いだけで講師に応募したところ、県中に出したんですけど、次の日に県南から電話が来ました。やっぱり、なり手がいないのかな。次の日もう面接をして、その次の日にはもう教壇立ってました。びっくりしました。先生になれるんだなと思って。もう、この年だから諦めて講師としてずっとやってくんだらうなと思いましたが、それもなんかいろんな人の支えによってちゃんと採用されて、お陰様で野球も持ちながらやっています。本当に野球があったから私も転校とかいっぱい多かったんですが、すぐ次の日に友達ができましたし、とにかく中学校野球のポイントやはり高校、本当の野球への橋渡しかなとずっと思っています。いくら長くやっても基本的には7回の野球なので、まだ本当の野球ではないと思うんですね、そこからがまたドラマがある。その前段階、入り口までをいかに楽しくやってもらうのかということ意識してずっとやっています。そのためには、私たちも少し力を入れて野球だけではなくて、こういう本当に開会式だったりとか、表彰式だったりとか、あとは逗子開成の子たちと生徒たちが交流する時もあるって、私もびっくりしたんですけど当時のその逗子開成の生徒。夢は何ですかと言ったら、僕の夢は東大に入って野球部に入って野球部を強くすることですって本気になってる子が結構いるんですね。学力としてもずば抜けて高かったり、親御さんの意識もめちゃめちゃ高かったり。うちの子たちも目をまん丸くしてました。えっと、そんな夢持ってる中学生いるんだ。そういう出会いってやっぱりでっかいかなと思うので、そういうのをこう仕掛けていきたいという思いはありますが、やっぱり気持ちだけでは当然そんなことはできませんので、本当皆様の後ろ支えあっての事だとは思っています。本当今後とも、10年20年30年と続いていければ、もっともっと素敵な事があるんじゃないかなと思っています。今後ともよろしく願います。まずはこの二日間、一生懸命生徒と一緒に試合をして、運営のほうも頑張っていきたいと思っていますので、よろしく願います。私からは以上です。

石川義塾中学校



改めまして、こんばんは。石川義塾中学校の國分と申します。私この会には昨年も出させていただいたんですけども、本当改めましてCKB野球大会開催にあたって沢山のご支援、本当にありがとうございます。私自身は石川義塾中学校野球部創立8年になるんで

すけども、その前は学法石川高校のほうでコーチを2年間やらせていただいております。中学校でも中高一貫校として野球部を作るといことで、8年前に監督をやらせていただいたんですけども、こう最初は正直私立ということですのでごく中学校の中での壁を感じていた時期がすごくありました。その中で、自分の中ですごくありがたいというふうに思えた瞬間がこのCKB大会だったんですね。青木先生を始めとする先生方が、本当に私のような本当に外から来たような者を本当に快く受け入れてくれて、一緒に頑張ろうというふうな環境を作っていただいたというか、それが今でも本当すごく感謝の気持ちでいっぱいなんです。やっぱり今今私立でやらせてもらっていて、正直やっぱり勝つためにどうするかということは常に考えるんですけども、今年夏初めて全国という舞台に出させていた

いたんですが、東北大会で準決勝までまず進んで、一度秋田県代表の大曲中学校というところにタイブレーク延長戦ですね、の末敗れて代表決定戦に回ったんですけども。その代表決定までの準決勝まではとにかくどうやったら勝てるんだ、どうやったら負けたくないんだということにすごく自分の中でも頭がいていたんですけども。ふと思って、代表を蹴ってここで勝てば全国、負ければ三年生引退というその狭間の試合の瞬間に思い出したのがこのCKBでもあります。やっぱり子供たちにどれだけ楽しい思い出をその試合で作らせるのか。例え、負けたとしても思い出といたら簡単ですけども、子供たちの中でどれだけ良い経験ができるのか。どれだけ財産ができるのかということをやったり考えようとその代表決定戦の前に思えて、試合前に今日はもう何も気にしなくていいから思い切ってこのグラウンド楽しもうって言ったらびっくりするように打線が繋がって、気付いたら東北の代表の切符が取れていたという瞬間がこう今年の夏あって。やっぱり、技術だけではなくて子供たちを大きく成長させる上では、やっぱり勝ち負け以外の部分すごく大事なんだということも改めて勉強させていただいたきっかけになったのが、やっぱりこのCKB大会だと私思っているんで、なんとかどこが優勝、勝った負けたじゃなくて、子供たちの1回しかない夏ですから、この夏は。その夏に私たちスタッフが全力でサポートして、子供たちのための最高に大会にしたいというふうに思っています。青木先生からご指名がありまして、開会式で大平先生が先程ありましたが先導員を私やらさせていただきますので。全力でこうならないようにですね、頑張りますので応援よろしく願います。今後ともお世話になります。ありがとうございました。

島田修一副委員長

國分先生、ありがとうございました。開会式、手と足一緒になることを期待しております。先生方、熱いお話本当にありがとうございました。こういった野球に対する熱い思いを持った先生方が運営される大会ですので、間違いなく甲子園以上に熱い熱い大会になると思います。メンバーの皆さんにおかれましても、26日土曜日7時半から開始式が行われます。また、表彰式のほうが翌27日、およそ進行次第ですが3時くらいから開催されますので、一人でも多くのメンバーの皆さんのご参加のほうお待ちしております。ありがとうございました。以上で、青少年奉仕委員会の例会を終わります。ありがとうございました。

青木哲也先生

すいません。今回10周年のCKB大会に、準優勝杯のほうを逗子開成さんのほうで是非贈呈させていただきたいということで、今回準優勝杯を作っていただくことになりましたので、今回大会の際持ってきますので、もし栄先生とか逗子開成の関係者とお会いができた際には、もし話題にさせていただければ大変ありがたいです。よろしく願います。ありがとうございました。